

離婚率と自殺数の関係をマクロ的にどう説明するか？

離婚＝結婚の破綻

⇒ではそもそも結婚とは何なのか？

結婚＝性欲の解放？

＝抑圧、抑制？¹

デュルケームは**結婚（制度）＝抑圧**ととらえた。

※「制度（＝社会）は個々人の欲望を抑圧する」は社会理論一般にみられる考え…典型がマルサス（Malthus）。また異議を唱えたのがフーコー

マルサス…人口と耕地の関係を考察した『人口論』が有名。食料生産は算術級数（等差級数）的に増加する一方で、人口は性欲が抑制されない限り幾何級数（等比級数）的に増加するため、食料生産能力以上に人口が増え、戦争・飢餓などの **positive check** によって調節されるとした。壊滅的な結果をもたらす **positive check** をさけるためマルサスが提唱した解決策は家族・財産概念を明確化すること、つまり財の個人所有と、扶養する人・される人の関係を明らかにすることだった。それにより、人々が財産を考慮して家族設計をすることを促進するのである。これは制度の欲望を抑圧する作用を示す。また、この文脈では社会福祉は財の分け合いであり、「財産・家族制」を無力化させるものになってしまう。（ゆえにマルクスはブルジョワ的だと非難した）

フーコー…フーコーは社会が欲望を抑圧するという見立てを「抑圧の仮説」とよび、『性の歴史』において、西洋の社会は性について語ることを促すことで性欲をあおってきた、つまり社会の果たしてきた役割は **oppression** ではなく **seduction** であると述べた。

デュルケームは、制度による規制の弱まり、つまり抑圧の解放が自殺につながると考えた。

（→**アノミー的自殺**）また、ある社会における離婚率は「結婚」、つまり制度としての家族の強固さを示す指標と捉えることができる。したがって離婚率と自殺率との相関関係も「性格欠陥者」など個人の資質を介在せず「規制の度合い」というマクロな要因で説明できる。

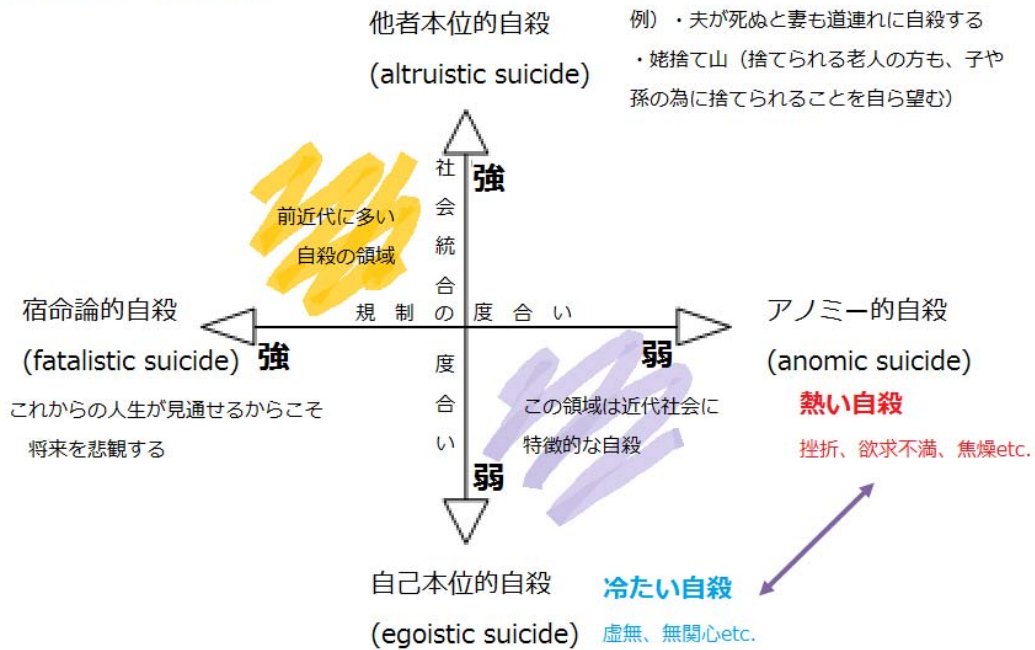
アノミー的自殺のもう一つの例）商工業者の自殺率の高さ

都市に居住する商業者は身分などの活動を抑制する社会制度からは自由だが、成功は自分の実力次第のものとなり、他者との比較を通して大小の挫折感、欲求不満、焦燥を経験し、自殺率が高くなる。（ここでの自殺は「熱い自殺」）

このように、デュルケームはマクロ変数（社会の状態）でマクロなもの（自殺率）を法則的に説明することで、社会の存在を証明するという意図をもっていた。これが、彼の業績が社会理論的に意義深い理由である。（⇒「社会あり、ゆえに社会学あり」）

¹学生の答えは時代によって変わってきている。20年前は解放、現在は制限が多数派。婚前交渉への意識の変化、セックスに対する関心低下などが要因であろう

自殺の類型－まとめ



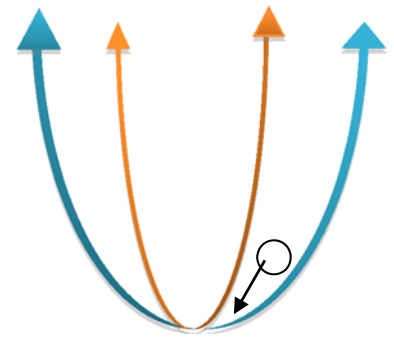
※歌では規制が弱い状態、統合が弱い状態ははっきり分けられている？

例) 「あなたなしでは生きていけない」…社会統合の弱まりが、大切な他者の存在を必要せしめていることを示す→冷たい自殺。もうひとつの軸はどうか？ 中島みゆきの歌「誕生」は「熱い」状態も示す珍しいものだが、いつの間にか社会統合の話になっている。「強く強く生きる人ほど脆いものよ」→「私がそばにいてあげるから」

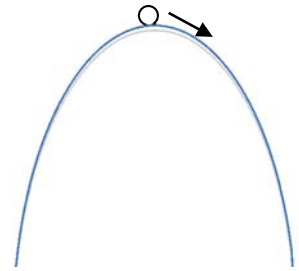
社会の自己調整メカニズム

ここまでのデュルケームの議論から、自殺率が低い社会は、社会の規制、そして社会の結びつきが軸の両極に振れすぎないものを示すことがわかる。したがって、存続している社会には、滅亡を防ぐために自己調整する、自動的な安定化のメカニズムが存在するはずであることが導かれる。

デュルケームの x 軸 y 軸を 3 次元で図示すると、下に凸である。かご型の形のようなもので、ボール (ある社会の状態を表す点) をどこに置いていても重力によって底の方 (真ん中=均衡点) に落ちていくイメージになる。



経済学の一般均衡理論で想定される均衡点、そして数学などで言う「鞍点」の議論が重要である。右図のような均衡状態は非常に不安定で、少しでも均衡点から外れるとどんどん離れて行ってしまふ。そこに引き戻す力は存在していない。
社会は上の図（下に凸）のようにできているということが機能主義のエッセンスと言える。



質問

ここでの議論は機能主義と葛藤理論にどうつながるのか？

→デュルケームは機能主義の神様のような存在である。パーソンズが4機能要件説を唱えたように、デュルケームの社会の見方は2機能要件説ととらえることもできるであろう。